

工学部の紹介

場所



金沢大学 工学部

(C) Copyright Faculty of Engineering, Kanazawa University 1996

1996年10月8日から 回のアクセスがありました。 [\[JAPANESE\]](#) [\[ENGLISH\]](#)

●[イベント情報](#) ●[お知らせ](#) ●[工学部の紹介](#) ●[組織構成](#) ●[掲示板\(案内のみ\)](#)

★ [金沢大学のWWWページの愛称決定](#) ★ [金沢大学NOW! 特集「顔」](#)

土木建設工学科	機能機械工学科	物質化学工学科	電気・情報工学科	人間・機械工学科
-------------------------	-------------------------	-------------------------	--------------------------	--------------------------

◆ | [金沢大学](#) | [文学部](#) | [教育学部](#) | [法学部](#) | [経済学部](#) | [理学部](#) | [医学部](#) | [薬学部](#) | ◆

金沢大学工学部の紹介

■ 学部長からのメッセージ	■ 入学案内	■ 学生情報
■ 工学部の歴史と経緯(沿革)	■ 進路案内	■ 金沢工業会(同窓会)
■ キャンパス位置・建物案内	■ 授業科目案内	■ 工学部データ
■ 教職員インデックス	■ 工学部 Q&A	■ イベント・行事案内

📄 文書: 完了。

はじめに

一昨年(平成8年度)1年間の間、工学部広報委員長として工学部のホームページの製作と立ち上げに関わったということから、工学部ホームページの紹介をすることになりました。

それでは、以下のURLアドレスにアクセスして下さい。 <http://www.t.kanazawa-u.ac.jp> 以上で、紹介を終わります。と行きたいところですが、これではお叱りを受けてしまいそうなので続けます。実際、工学部のホームページの現状は、実際にそれを見てもらえば一目瞭然なので、あえてここで事細かに紹介するのは止めて、この機会を借りて、一昨年暮れの公開までどのような経過でこのページを作っていたかを自分なりに振り返ってみたいと思います。

誰がつくるの？（準備期間：？月～8月）

大学の学部や学科でホームページを作ろうとした場合、最初に問題になるのが、「いったい誰がつくるの？」ということでしょう。この段階で足踏みをしてしまうことがえてしてあるようです。工学部の場合は広報委員会の仕事となったのですが、この辺の経緯が実は私自身よくわかっておりません。というのは、その前の年在外研究で1年間留守にしていた帰ってくると、「自分は広報委員長で工学部のホームページをつくらないといけない」とのことを聞かされました。1年間留守にしていたという負い目？もあってか引受けはしたのですが、その後のことを考えると不安でした。Mosaicの最初のバージョンが世に出回り始めた時期からあちこちのwebページを見てまわっていましたのでこの世界には馴染みはあったのですが、自分でwebページを作った経験などはありませんでした。それでHTMLとwebサーバーの仕組みの勉強から、この仕事を始めることになりました。幸いwebサーバーの設定やメンテナンスについては情報処理委員会の方が担当し、広報委員会はコンテンツの製作を行うだけだったので、労力の分担といった点からは良かったと思っています。

コンテンツの検討（内容検討期間：9月～10月）

次に掲載内容の検討に入るわけですが、最終的には広報委員会で掲載項目を決定したものの、それに至るまでには、内容に関連して入試運営、学生生活、教務、情報処理委員長や評議員、学部長等の意見を聞きに行くこともしばしばありました。この際によく話題に昇るのが、「web情報は印刷物とは違って不特定多数の人に見られるので個人情報の公開には注意が必要」ということです。現在は金沢大学ホームページでも教職員検索などの計画が進められており、将来はweb上で教職員のメールアドレスなども入手可能になる方向に進んでいます。しかし工学部のページを作り出した頃はまだ議論が始まったばかりで、メールアドレスの一般公開は残念ながら見送ることとなりました。一方では学部内でお互いのメールアドレスがわからないと困るという声も多く、工学部内のみアクセス制限付での掲載となり現在に至っています。この他に掲載内容の検討の段階で消えていったものの一つとして科学研究費による研究リストの公開があります。これは印刷物としても出されており、大学の研究活動を知ってもらうためにも良い材料なので問題はないと思っていたのですが、これも個人情報としての性格が強いということから、webでの公開については多くの賛成が得られませんでした。

工学部では研究室でもwebサーバーを持っているところが多く、大学院や学部生の作ったページにはユニークで役に立つものも少なくありません。工学部のページでもそれらのページにリンクを張り、ページを訪れた人に楽しんでもらえるような要素を設けたいと考えたのですが、これについても企画倒れとなってしまいました。学生が個人的に作成したページ（大学の研究室のサーバーを使っている以上、それが個人的なものかどうかというのは微妙な議論ですが）を大学もしくは学部の公的なページにリンクすることに対して、ページを管理する側だけでなく学生の方でも抵抗を感じる人が多いようです。

これらの実現しなかった内容を見ると、情報を見る立場からは興味あるものが、情報を発信する側では好ましくないという矛盾が、公式的なページには多分にあるように感じます。ともかく、こういった掲載内容の検討を通じて、「工学部のページ」が（とりあえず）どうあればいいのかといったイメージができてきました。発信できる情報量と質においては、学科やさらにその下にリンクされる研究室や学生のページの方が勝っており、「工学部のページ」はそこに至る通り道のページと考えた方が良くように思いました。そこで「工学部のページ」では、各学科へのアクセスがしやすいようにリンクを見やすい場所に置くこと、内容に関しても、工学部概要や工学部パンフレットなど印刷物として出されている中から必要なものだけに止めること、そしてページの容量を小さくして高速に閲覧できるようにすることを心がけて作成にあたることとしました。

作成（作成期間：10月～12月）と公開

実際のページの作成は、掲載するテキストの入力や画像データの作成、そしてそれらを HTML の書式に編集の作業からなります。テキストや画像のうち各学科に関連したものは学科の委員に分担して電子メールやフロッピーディスクの形でもらいました。その他の「学部」としての情報に関しては事務の方から提供してもらうわけですが、事務方から提供してもらえるのはほとんどが印刷物で、テキストファイルの形でもらえるものはごくわずかでした。印刷物についてはテキストファイルとして入力をし直さねばならず、テキストとしてもらえるものでもワープロ入力したものを 1.2M の DOS フォーマットで渡されるため、

1.2MB DOS フロッピー → 一時代前のPC → 1.4MB DOSフロッピー → 自分のMac

という面倒な過程を経なければなりません。特に事務サイドで使用される文書には罫線が使われているものが多く、これが変換されて私の手に届くまでには文章としての体裁をなしていないことしばしばでした。こういった訳で事務サイドのコンピュータ環境の劣悪さを呪いながら、テキスト入力と編集を行う日々が何ヵ月か続きました。今でこそ事務方にも LAN 接続されたコンピュータが導入され電子メールで会議案内などが流されるようになりましたが、この状況が1年早ければと残念でなりません。ともあれ11月末には編集作業も完了し、12月より学部内のみ試験公開となりました。それから、約2週間の学部内からのチェックを経て12月25日から一般公開を開始した次第です。英語のページについてもほぼ同じ時期から公開を始めました。ただし、その後で国立大学の1学部のホームページとしては英語が貧弱だとのチェックが入り、その後、少なからず文章の修正があったことを付け加えておきます。

おわりに

昨年度で工学部広報委員長の役も終わったのですが、いまだに工学部ホームページの管理者をしています。とはいうものの、今年度になってからはこれといった更新もしておらず、サボり気味となっています。更新が速やかに行われたい原因としては、管理者が情報の更新に気が付かなかったり忘れてたりして更新のタイミングを逸してしまうことが挙げられます。これを無くすには、情報の更新を容易に把握できる立場の人がページの管理者に加わるのが一番確かだと思います。そういう意味でも、今一度ホームページの管理体制を考え直す必要があると思っています。コンピュータネットワークが整備された事務サイドが今後大きな役割を果たしてくれることを期待しています。

インターネットがこれだけ世の中に普及した今、WWW は、我々が独自の判断で、他の機関に依存せず、直接発信することのできる貴重なメディアだと思います。新聞やTV がしばしば誤解や誇張した報道をするのに対して、WWW では自分達が納得できる情報を流すことができるのです。もちろんこれは正しく使わないと自分達を傷つける諸刃の刃であることも自覚しないとイケません。いずれにしても、社会と大学を直接つなぐことのできるメディアとしての WWW に、大学人としてもっと関心が持たれてもよいのではないかと感じている昨今です。

最後に工学部のホームページを作成するにあたってご協力頂いた皆様にこの場を借りて感謝の意を表したいと思いません。どうも有難うございました。

(文責： 工学部人間・機械工学科 坂本 二郎)